

大学の世界展開力強化事業 構想概要 名古屋大学

【構想の名称】(選定年度24年度・申請区分(Ⅱ)SENDプログラム)

ASEAN地域発展のための次世代国際協カリーダー養成プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

グローバル化による経済環境や国際協力活動の変化に対応するため、開発援助とビジネスの間をつなぐ視点を備え、ASEAN地域と日本双方の経済・法・政治・社会・文化の共通理解をもった次世代国際協カリーダーを養成する。

【構想の概要】

名古屋大学とASEANの7大学がコンソーシアムを形成し、英語によるコースワークとフィールドワーク・インターンシップを組み合わせたカリキュラムを開発する。日本人学生は日本語指導支援の他、日本の法制度や文化について紹介活動を行う。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 透明性・客観性の高い厳格な成績管理

参加大学はプログラム運営委員会を形成し、コースワークと実地研修を有機的に結合させ、達成目標を明示化する。また、厳格な成績管理・出口管理・単位の実質化を行う。

○ 単位の相互認定及び成績管理システムの明確化

参加大学間で評価・質保証委員会を設置し、年1回の全体会合や委員会内ポータルを通じて、国際的なシステムに対応する単位互換と成績管理の方法を整備する。

○ 質の高い教育体制

本プログラムで採用する教員を国際公募する。評価・質保証委員会の会合等を通じてFDプログラムを共同開発し、本プログラム参加教員のためのFD実施責任者を参加大学に配置する。

(インドネシアで実施された海外実地研修)



■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

(カンボジア王立法経大学 日本法教育研究センター)



○ コンソーシアムの形成

名古屋大学とASEANの参加7大学は、学術交流協定、アジア・アフリカ学術基盤形成事業、海外実地研修、日本法教育研究センターの設置等を通じ連携してきた。

○ SENDによる日本語教育支援・日本文化紹介活動

日本法教育研究センターで日本語教育や日本文化体験プログラムを長年提供してきた実績をもつ。今後SENDコーディネーターを配置し、体制を強化する。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成25年度から学部生・大学院生あわせて合計52名を派遣する。この中には単位取得を伴う学期単位の派遣者と、単位取得を目的としない短期集中プログラムへの派遣者が含まれる。SEND該当者は16名を予定。

○ 外国人留学生の受入れ

平成25年度から学部生・大学院生あわせて合計48名を受入れる。この中には単位取得を伴う学期単位の受入れ者と、単位取得を目的としない短期集中プログラム(インターンシップやフィールドワークと座学を組合わせて提供)への受入れ者が含まれる。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	12	52	52	52	52
学生の受入	0	48	48	48	48

(注)申請時の計画

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入れを促進するための環境整備

○ 派遣前準備教育

平成21年度より英語新カリキュラム「Academic English」を設け、英語力強化に取り組んでいる。派遣決定学生にはオリエンテーションを開催し、危機管理を含めた出発までの支援を実施する。

○ 教育支援・宿舎等

演習等の授業にTAを配置し、留学生の特別な学習ニーズに対応する支援体制を整えている。この他、留学生センターにアドバイザー・カウンセリング部門が設置されている。また、新規渡日留学生用に約80戸分の宿舎を確保している。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ ウェブサイトでの公開と国際シンポジウム

「名古屋大学ポータル」を設け、学生が本プログラムに参加し国際経験を積むための学習ポートフォリオを通じた支援や、学生間の相互発信を奨励する。また、成果は年1回国際シンポジウムを開催して発表し、報告書にまとめる。